

実習施設名：特別養護老人ホーム〇〇苑	施設種別：特別養護老人ホーム	作成メンバー：	作成日：202__年__月__日
--------------------	----------------	---------	------------------

ソーシャルワーク実習教育に含むべき事項(国通知)	達成目標(評価ガイドライン)※各達成目標の具体例は行動目標を参照	当該実習施設における実習の実施方法および展開					指導上の留意点
		学生に求める事前学習	具体的実習内容				
			SW実践の場の理解に関する内容	SWrの理解に関する内容	SW実践の理解に関する内容	SW実践の理解に関する内容(発展的)	
① 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成	(1) クライアント等と人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる	<ul style="list-style-type: none"> 施設HPの閲覧 実習プログラムの確認 コミュニケーションにおける基本的態度について予習する 	<ol style="list-style-type: none"> 施設の持つ機能、関係機関との関わり、利用する対象者の状況について説明を受ける 利用者が過ごす1日のプログラムと職員の仕事内容からイメージする 利用者が過ごすフロアを見学する 施設の感染症対策について説明を受ける 	<ol style="list-style-type: none"> ソーシャルワーカーが利用者とのコミュニケーションにおいて個別性を理解したうえで、どのように配慮しているのか観察する。 家族との面接の場面に同席し、配慮すべき点について質問する 関係機関との連絡、調整の方法や多職種が参加する会議に同席し、ソーシャルワーカーの場面に応じた姿勢や態度について観察する 施設内外での会議やミーティングに同席し、ソーシャルワーカーが担っている役割を観察する 	<ol style="list-style-type: none"> 利用者とのコミュニケーションを展開するうえで、望ましい質問内容を意識し、自ら話題を提供する 職員の送迎に同行し、利用者や家族の関係性や、生活環境、住んでいる地域の状況について観察し記録する 同席した家族との面接場面において、ソーシャルワーカーが行ったコミュニケーションの展開方法を観察するとともに、相手の主訴とその背景にある願いについて記録にまとめ実習指導者からスーパービジョンを受ける。 関係機関、多職種との会議やミーティングに参加し、ソーシャルワーカーの視点と多職種の視点の違いについて考察し記録する 	<ol style="list-style-type: none"> 相手の話の意図をくみ取り、気持ちを想像しながらコミュニケーションを図る フェイスシートを作成する これまでの会議録、ミーティング録を確認するとともに、今回参加した会議ミーティングの記録を作成する 個人情報保護に関する施設の取り組みとデータの保管方法について質問をする 	<ul style="list-style-type: none"> 施設(法人)パンフレット 施設(法人)の概要と関連施設 施設の組織図 週間活動プログラム 月間活動予定表
② 利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成	(2) クライアント等との援助関係を形成することができる	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の身体的特徴について調べる バイスティックの7原則を確認する ロジャーズの3原則を確認する 受容、傾聴の姿勢について調べる 	<ol style="list-style-type: none"> 職員と利用者との日常的なコミュニケーションと面接場面でのコミュニケーションの目的の違いについて考察する 面接時における環境面への配慮について説明を受ける 生活場面面接と構造化面接の特徴について違いを考察する 	<ol style="list-style-type: none"> 利用者個々の特性に応じたコミュニケーションの工夫や展開方法、留意点について観察する ソーシャルワーカーの面接場面を観察し、どのような技法を使い、また、どのような場面でその技法が有効であったのかを考察し記録する ソーシャルワーカーのエンパワメントの視点に基づくこれまでの実践事例において、成功した事例やうまくいかなかった事例についてヒアリングを行う 	<ol style="list-style-type: none"> 関わる利用者の個性を理解したうえで、適切な言語・非言語的コミュニケーションを意識しコミュニケーションを図る 基本的応答技法(繰り返し、要約、明確化等)や基本的態度(視線、表情、あいづち、うなづき、声のトーン等)を意識し、意図的に利用者とのコミュニケーションを図る 生活場面面接において、長期記憶を活用したコミュニケーションを図り、利用者のこれまでの生活歴など人生の歩みについて理解する クライアントとの関わりやコミュニケーションの展開について、実習指導者からスーパービジョンを受ける 	<ol style="list-style-type: none"> 実習生自身の対象者とのかわりを自己評価する ソーシャルワーカーの相談援助の実践と社会福祉士の倫理綱領との関係性について考察し記録する プロセスレコードを作成し、ソーシャルワーカーが活用した面接技法やバイスティック7原則について振り返り記録に整理する コミュニケーションから得た情報をもとに利用者のライフストーリーを作成する ロジャーズの3原則の有効性について考察し記録する 対応が困難であった事例を取り上げロールプレイを行い実習指導者と振り返りを行う 援助関係の形成において実習生が実践から理解した内容と自身の課題をまとめ発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ケース記録 社会福祉士の倫理綱領

③	<p>利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施および評価</p>	<p>(3) クライアント、グループ、地域住民等のアセスメントを実施し、ニーズを明確にすることができる</p> <p>(4) 地域アセスメントを実施し、地域の課題や問題解決に向けた目標を設定することができる</p> <p>(5) 各種計画の様式を使用して計画を作成・策定および実施することができる</p> <p>(6) 各種計画の実施をモニタリングおよび評価することができる</p>	<p>・施設のパネル、フレット、資料、ホームページなどを閲覧し、利用者の特性や施設の機能、業務の概要を調べておく</p> <p>・援助過程のプロセスについて教科書で確認しておく</p>	<p>①施設で使用する各種書式や面接記録を閲覧し、記入方法や収集すべき情報について説明を受ける</p> <p>②各種計画書を閲覧して、地域課題の把握の方法、連携する関係団体・機関と多職種連携のしくみについて説明を受ける</p> <p>③インテーク面接に同席する</p> <p>④担当ケースを設定し、生活場面や日常生活の様子を観察のうえ援助過程を経験する</p> <p>⑤地域福祉計画や介護保険事業計画、施設作成する地域資源マップなどを用いて施設のある地域の特性や課題について説明を受ける</p>	<p>①担当ケースの入居申し込みから現在の援助過程までの記録を閲覧し、その過程におけるSWrのかかわりについてヒアリングする</p> <p>②各種計画書の関連性について整理し、SWrの役割について考察のうえ記録する。</p> <p>③インテーク面接におけるクライアント、家族とのかかわりについて観察し、注意点について質問する</p> <p>④担当ケースのアセスメント、個別支援計画の作成、実施、モニタリングをおこなう</p> <p>⑤特別養護老人ホームが地域課題の解決に向けた取り組みを行う意義とSWrの役割について説明を受ける</p>	<p>①ケース記録からクライアントの家族構成を理解し、ジェノグラムを作成する</p> <p>②担当ケースのこれまでの生活歴をヒアリングし記録する</p> <p>③担当ケースのケース記録の閲覧、生活場面の観察をとおし、収集した客観的・主観的情報をバイオ、サイコ、ソーシャル要因に分類し分析する</p> <p>④担当ケースのエコマップを作成し、取り巻く環境や関係性を理解しニーズを把握する</p> <p>⑤収集した情報を統合し、支援目標を立て個別支援計画を作成、実施し、それぞれの過程でスーパービジョンを受ける</p>	<p>① ICFになぞらえてクライアントの現在の状況を整理し報告する</p> <p>②立案した個別支援計画を模擬サービス担当者会議で発表し評価を受ける</p> <p>③援助過程実践を振り返り、SWrの業務、機能、必要な専門性を考察し実習報告会で発表する</p> <p>④実習生の視点で地域資源マップを作成する</p>	<p>・実習生の特性や進捗状況に応じて、担当ケースを選定する</p> <p>・必要な担当ケースの面接記録、ケース記録など（実習施設の許可を確認のこと）</p> <p>・フェイスシート</p> <p>・カルテ、ケース記録</p> <p>・アセスメント、ケアプラン様式</p> <p>・カンファレンス記録類など</p>
④	<p>利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価</p>	<p>(7) クライアントの権利擁護およびエンパワメントを含む実践を行い、評価することができる</p>	<p>・成年後見制度について調べる</p>	<p>①クライアントの権利擁護に対する制度的仕組みと組織的取り組みについて説明を受ける</p> <p>②過去にあった事例と解決に向けた取り組みについて説明を受ける</p>	<p>①成年後見制度、苦情解決、第三者評価の概要、リスクマネジメント、虐待防止、身体拘束禁止などにたいする具体的な取り組みと、SWrの業務との関連性について説明を受ける</p>	<p>① SWrに同行しエンパワメント視点に基づく実践、自己決定のプロセスや生活における権利擁護の機能と視点について考察し記録する</p>	<p>①厚生労働省等が公開する事例を閲覧し、解決策を検討するとともに、高齢者虐待などが行われる要因、背景を考察する</p> <p>②成年後見人等にインタビューし記録する</p>	<p>・秘密保持の再確認を行う</p> <p>・社会福祉士の倫理綱領</p> <p>・苦情処理、ケース記録などの書類</p>

⑤	<p>多職種連携およびチームアプローチの実践的理解</p> <p>(8) 実習施設・機関等の各職種の機能と役割を説明することができる</p> <p>(9) 実習施設・機関等と関係する社会資源の機能と役割を説明することができる</p> <p>(10) 地域住民、関係者、関係機関等と連携・協働すること</p> <p>(11) 各種会議を企画・運営することができる</p>	<p>・医師、看護師、保健師、PT、OTなどの医療関連職種や、生活相談員、ケアマネージャー、介護福祉士などの福祉関係の職種について調べる</p>	<p>① 法人が展開する各種事業について、パンフレットや組織図を参照する</p> <p>② それぞれの事業の内容や果たしている役割について指導者より説明を受ける</p> <p>③ 施設が関係している各種団体・機関、他事業所の専門職との関わりや連携方法について説明を受ける</p> <p>④ 各種会議の目的と企画・運営の流れ、記録様式などについて説明を受ける</p>	<p>① 法人内外の各種事業所の専門職との連携方法についてヒアリングをおこなう</p> <p>② 関係するそれぞれの専門職の役割や支援の視点の違いについて考察し記録する</p> <p>③ 各種会議に参加し、SWrの果たす役割を考察するとともに、組織内の情報共有や個人情報保護の方法についてヒアリングする。</p>	<p>① 日々の申し送りに参加して他専門職の業務やクライアントの状況についての確認をおこなう</p> <p>② サービス担当者会議に参加して、各専門職との合意形成のプロセスを理解するとともに、援助過程の実際の流れを確認しSWrとしての視点と役割を考察する</p> <p>③ 在宅サービスのサービス担当者会議に参加し、他機関、他事業所の専門職との連携・協働の過程を観察する</p> <p>④ 地域資源マップを作成する</p>	<p>① 多職種連携の方法、手続きについてレポートにまとめ実習報告会で発表する</p> <p>② SWrや各種専門職にインタビューをおこない、それぞれの職種の専門性の違いと連携するうえでの留意点について考察し記録する</p> <p>③ 施設の持つ機能を地域に活かす取り組みと、そのために必要な連携先を検討し、提案する。</p>	<p>・関係機関に実習生が各種会議等に参加することをおく</p> <p>・多職種連携に関連するこれまでの会議記録やケース記録</p>
⑥	<p>当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解および具体的な地域社会への働きかけ</p> <p>(12) 地域社会における実習施設・機関等の役割を説明することができる</p> <p>(13) 地域住民や団体、施設、機関等に働きかけることができる</p>	<p>・施設のある地域の地域特性、人口動態、社会資源について調べる</p>	<p>① 施設の成り立ちや、有する機能、地域における取り組み、利用する対象者の状況について説明を受ける</p> <p>② 施設が所在する地域の特徴やストレスングスについて調べる</p> <p>③ 施設が行う公益的取り組みや地域と協働している活動内容について説明を受ける</p> <p>④ 地域住民との連携の場となる会議や集会について内容の説明を受ける</p>	<p>① 地域共生社会の実現に向けた社会福祉士の機能と求められる役割について、実習指導者の思いと実現のために行っている活動について説明を受ける</p> <p>② 公益的取り組みの実施のきっかけと経緯、これまでの支援のプロセスについて指導者から説明を受け、ソーシャルワーカーが行う他機関や地域住民への働きかけについて確認し記録する</p>	<p>① 地域社会における実習施設・機関等の役割や地域のストレスングス等調べた内容を記録にまとめる</p> <p>② 施設（法人）に公益的な取り組みが求められる背景と、期待される役割について考察し、実習指導者に報告する</p> <p>③ 公益的取り組み（サロン活動等）や地域の集いに参加し、参加者から生活上の困りごとや地域のニーズ等をヒアリングする</p> <p>④ 地域課題を考察し、課題解決に向けて現在取り組んでいる活動の見直しや他機関との協働、新たな取り組みの可能性について企画立案する</p>	<p>① 公益的取り組みの活動やニーズ等のヒアリングを行い、現在の課題や新たな可能性を整理し、地域共生社会の実現に向けた社会福祉士の機能と役割を考察し実習報告会で報告する</p> <p>② 公益的取り組み（サロン活動等）でのイベント、ボランティアの受け入れ等を企画・実施し実習指導者や参加者から評価を受ける</p>	<p>・法人の公益的取り組みに関する概要と施設が実施している公益的取り組みの状況に関する資料</p> <p>・事業報告書</p> <p>・介護保険法に関する資料</p> <p>・老人福祉法に関する資料</p> <p>・社会福祉士に求められる実践能力（厚労省資料）</p> <p>・施設が刊行した広報誌</p> <p>・ボランティアの受け入れ資料</p>
⑦	<p>地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>(14) 地域における分野横断的・業種横断的な社会資源について説明し、問題解決への活用や新たな開発を検討することができる</p>	<p>・地域の社会資源の状況を調べる</p> <p>・施設のホームページを閲覧し、行っている公益的取り組みや地域貢献事業を確認する</p>	<p>① 施設の関係機関・団体、ボランティアやこれまでおこなってきた法人の公益的取り組みについて実習指導者から説明を受ける</p> <p>② 他施設と共同で行っているイベントや研修会などの取り組みについて実習指導者から説明を受ける</p>	<p>① 関係機関・団体、ボランティアとの打ち合わせに参加する。また、公益的取り組みの場に参加し、SWrの役割について考察し記録する</p> <p>② 他施設と連携しておこなっている取り組みに参加し、SWrの業務について考察する</p>	<p>① 関係機関・団体の職員、ボランティアと施設がこれまで協働でおこなってきた取り組みについて、データなどを用いて評価する</p> <p>② 地域課題や地域のストレスングスについて他地域と客観的に比較しながら検討し必要な資源の開発について考察する</p>	<p>① 公益的取り組みについて実際に場に参加し、その効果とSWrの役割についてレポートを作成する</p>	<p>・会議の参加者に実習生が参加することの同意を得ておく</p> <p>・これまでイベント、公益的取り組みなどに関する資料</p>

⑧	<p>施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）</p>	<p>(15) 実習施設・機関等の経営理念や戦略を分析に基づいて説明することができる</p>	<p>・施設のパネル、フレット、資料、ホームページなどを閲覧し、法人の理念、事業形態などについて確認する</p>	<p>① 法人事業報告や決算報告から、事業の状況や短期計画、長期計画、BCPについて説明を受ける ② 実習施設の理念や意義、施設の法的根拠、介護保険施設としての指定基準と期待される役割などについて説明を受ける</p>	<p>① 組織における意思決定のしくみと実習指導者の業務との関係性について説明を受ける ② 組織の方針、決定事項の共有のあり方と社会福祉士が担うマネジメント業務について説明を受ける</p>	<p>① 人材の管理、育成の方法に関して、質問するとともに、実習指導者が行う教育的、支持的、管理的スーパービジョンの効果について自身で振り返る ② 地域の団体、関係機関、関連事業所との関係についてマッピングを行う</p>	<p>① 各種委員会の取り組みを、法人理念、組織図、事業計画、決算書と関連付けて実習指導者に質問し、理解した内容を規則に残す</p>	<p>・財務担当者から理解しやすい資料を用いて説明を行う</p> <p>・法人事業報告書 ・法人決算報告書</p>
⑨	<p>社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</p>	<p>(17) 実習施設・機関等における社会福祉士の倫理に基づいた実践およびジレンマの解決を適切に行うことができる</p>	<p>・社会福祉士の倫理綱領・行動規範を印刷し準備すること</p>	<p>① 社会福祉士の倫理綱領や行動規範をともに確認しながら、実習施設の中で社会福祉士の倫理にもとづいた実践が行われた事例について説明を受ける ② 各種規則の内容とSWrの業務との関連性について説明を受ける</p>	<p>① 実習指導者が感じたジレンマの実際と倫理綱領・行動規範に照らして判断した事例について説明を受ける ② 規則を遵守することの重要性について社会福祉士の倫理綱領にある「組織・職場に対する倫理的責任」を再読し確認する</p>	<p>① 実習中の出来事から感じたジレンマを言語化するとともに、倫理綱領や行動規範になぞらえてどのような判断が望ましかったのか考察し記録する ② 上記についてスーパーバイザーからスーパービジョンを受ける</p>	<p>① ジレンマが解消した事例について言語化し振り返り、実習報告会で発表する ② 社会福祉士の倫理綱領にある「組織・職場に対する倫理的責任」について組織やSWrがどのように具体的に実践していたのか考察し報告する</p>	<p>・法人就業規則を用いて、組織の一員としての役割や責任について説明を行う</p> <p>・社会福祉士の倫理綱領・行動規範 ・法人就業規則</p>
⑩	<p>ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ ・ネットワークング ・コーディネート ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション 	<p>(19) 以下の技術について目的、方法、留意点について説明することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ ・ネットワークング ・コーディネート ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション 	<p>・用語の意義、目的、機能、方法について調べる ・関連する社会資源を調べる</p>	<p>① 過去の訪問、面接事例から実践におけるソーシャルワーク技術について、実習指導者より説明を受ける ② 過去の会議の議事録を閲覧し、会議の進行や運営の留意点等について実習指導者より説明を受ける</p>		<p>① 訪問、面接に同行し、収集した情報を整理して、顕在的、潜在的なニーズを考察し、利用者の生活課題を抽出する。さらに課題解決に向けた計画を作成し、実習指導者や職員にプレゼンテーションを行う ② 施設内外の会議に同席し、SWrの進行、意見調整や橋渡し、合意までのプロセス等を観察し、記録する</p>		<p>・事前の実習生同行の同意を得る ・訪問記録・面接記録 ・各種会議議事録</p>
<p>※社会福祉協議会の基本実習プログラムは、公益社団法人日本社会福祉士会（2022）『社会福祉士実習指導者テキスト』中央法規の p. 214-p. 216 に詳しく記載されています。また、ソーシャルワーク実習教育に含むべき事項（国通知）「①②⑥⑩」についても記載されています。</p> <p>※本学部では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年次に「ソーシャルワーク実習Ⅰ」として、5日間（1日7.5時間換算の場合、37.5時間） ・4年次に「ソーシャルワーク実習Ⅱ」として、27日間（1日7.5時間換算の場合、202.5時間）の実習を配属します。 ・実習Ⅰでは「ソーシャルワーク実習教育に含むべき事項（国通知）」の①、②、⑥を中心に、実習Ⅱでは①～⑩の網羅的な取り組みを通して、包括的支援が実践できるソーシャルワーカーの育成を目指しています。 								